

「黒岩ため池」の竣工式を開催

東部振興局日出水利
耕地事務所 佐保貴之

農地防災事業「黒岩ため池」の竣工式が7月5日に杵築市大内で開催され、東光日出水利耕地事務所長、永松杵築市長をはじめ、地元受益者ら約30名が出席しました。

改修前の黒岩ため池は、年々堤体の浸食が進んでおり、大規模な地震が発生した場合は堤体が決壊し、下流域に甚大な被害を及ぼすことが懸念されていました。

また、洪水吐も素掘であり、十分な断面が確保されていなかったため、地元受益者は早期の改修を望んでいました。

今回の改修により、地震等の自然災害による被害を未然に防止し、地域住民に安全・安心な生活環境を提供するとともに、安定的な農業用水の確保が可能となり、地域農業の振興が図られることが期待されます。



改修後の黒岩ため池と竣工記念碑の除幕式

10年ぶりの快挙！九州・沖縄青年農業者プロジェクト発表 最優秀賞受賞！

東部振興局
大友 希美

鹿児島市で7月14日～15日に開催された九州・沖縄青年農業者会議において、杵築市みかん生産者の木村知雄（きむら ともゆう）氏が、「ヒートポンプでハウスみかん産地再生！～ハイブリッド加温で一石三鳥！～」のプロジェクト発表課題で最優秀賞を受賞しました。

木村氏は、生産コストの大部分を占める加温コスト削減のため、産地でいち早くヒートポンプの活用に取り組み、温度管理や品質調査などのデータ集積、収支の分析など2年間の試験の結果、目標とする加温コスト25%の削減を達成しました。

発表では「課題解決に向けてのICTを活用したデータ分析と創意工夫」、「収支実績に基づく実効性」、「地域への波及効果」が高く評価されました。本県代表が最優秀賞を受賞したのは平成18年以来、10年ぶりです。

担当普及員は、課題の設定、研究項目、目標設定をアドバイスするとともに、成果を地域へ普及するサポートをしてきました。木村氏は、来年2月の全国大会に向けて「皆さんの思いに答え、産地のPRにつなげたい」と抱負を語っており、全国上位の成績を収めるよう今後も支援していきます。



県代表として堂々と発表した木村氏

第2回市町村・森林組合職員林業技術等勉強会の開催

東部振興局
田辺 陽一郎

7月22日に市町村・森林組合職員等29名が参加し、林業技術等勉強会を開催しました。

この勉強会は市町村職員、森林組合職員に林業や木材産業に関する知識・技術・情報を提供することで、業務に対する理解を深め、地域の林業振興につなげることを目的としています。

今回の勉強会では、6月7日に東京で開催されたシンポジウム「日本の建築における木材利用の未来」の内容を報告しました。併せて、佐伯広域森林組合の伊原代表理事専務から「森林組合の業務のあり方について」というテーマで講演していただきました。

参加者からはCLT等の新技術による大規模建築物への木材利用の拡大を期待する発言や佐伯広域森林組合などの先進的な取組を参考に地域にあった林業経営を目指したいという意見がありました。

今後も研修会等を通じて市町村・森林組合職員との連携を強化し、東部地区の林業振興に努めていきます。



勉強会で熱心に聴講する様子

**サワラ資源回復を目指して!!
瀬戸内海11府県による中間育成放流**東部振興局
東馬場 大

別府湾の重要水産資源であるサワラ資源を回復させようと、大分県漁協日出支店では、大神漁港内の生け簀で育てたサワラの稚魚、約8,000尾を6月14日に別府湾に放流しました。

サワラの稚魚は、6月6日に体長3cmで受け入れ、自然界で生き残りやすくするために7cmまで育てました。（このように、少し大きく育てることを「中間育成」といいます。）

サワラの稚魚は食欲が旺盛で、餌不足になると共食いをするので、漁業者は炎天下の中、毎日、何度も餌やりを行いました。

本県の漁業者がこの取り組みをはじめたのは、平成9年にサワラの漁獲量が激減したことがきっかけです。

サワラは瀬戸内海を広く回遊する魚なので、瀬戸内海沿岸の漁業者が話し合っ、今では11府県で同様の取り組みを行っています。

大分県を含む瀬戸内海沿岸の11府県の漁業者は、サワラの資源を回復させるために、サワラの稚魚を放流するだけでなく、サワラを獲る網の目合いを大きくしたり、禁漁期を設定したりしています。

これらの取組により、瀬戸内海のサワラ資源量の動向は、近年は増加傾向と評価されており、別府湾でも7月から開始されたサワラ漁は順調な滑り出しとなっています。



中間育成し、放流されるサワラ